

平成29年10月19日（木）～10月20日（金）
 第58回 中国四国地区大学図書館研究集会
 『図書館業務 誰が担う？どう担う？』

「大学図書館職員の専門性について」

～変わり続ける世界で、人々の知的生産を支える社会装置（※）
 の担い手である我々はいかにして生きるか～

信州大学附属図書館 管理課長
 ／副館長（事務担当）
 森 いづみ
 mori_izumi@shinshu-u.ac.jp

※青柳英治編著『ささえあう図書館：「社会装置」としての新たなモデルと役割』勉誠出版、2016.1 より
 写真：信州大学附属図書館（左から中央図書館、教育学部、医学部、工学部、農学部、繊維学部の各図書館）

信州大学 附属図書館
 SHINSHU UNIVERSITY

ある大学図書館職員の四半世紀									
		受入	目録	電子化OA	参考	閲覧	ILL	教育	広報
東大駒図 平成3年～	4年 9ヶ月	外国 雑誌	・・・	最初の3カ月：総合図書館で見習い					
東大総図 平成8年～	3年				参考			リテラ シー	冊子
東大基盤 センター 平成11年～	1年				第一の転機			リテラ シー	
三重大図 平成12年～	7年		目録	リポジトリ	参考		ILL	リテラ シー	Web 冊子
NII 平成19年～	6年	REO CLOCKSS	CAT	SPARC CiNii リポジトリ			ILL	研修	Web 冊子
お茶大図 平成25年～	4年	・・	第三の転機						
信大図 平成29年～	1年目	・・	マネジメント、人材育成、職場の環境整備 学習・学修支援（空間・人）、地域連携						

信州大学 附属図書館
 SHINSHU UNIVERSITY

第一の転機（1999年）

- 情報リテラシー@東大情報基盤センター
 - ✓ 利用者教育から情報リテラシーの時代へ
 - 学術審議会. “大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について（建議）”. 1996
 - ✓ 「頑張れば頑張るほど、いらなくなる存在？」
 - ✓ 情報リテラシーは単にOPACの使い方を教えるだけではなく課題解決能力を身に付けてもらうこと。
 - ✓ まず親しんでもらう。ポップな案内・キャラクターの作成

目からウロコが落ちる日々
視点を変える・発想を変える
疑ってみる・考え抜く

第二の転機（2006年）

● 機関リポジトリ@三重大図書館

Date: Mon, 18 Dec 2006 21:34:46 +0900 From: Koichi Ojiro <ojiro @ nii.ac.jp>
Subject: [drf 0194] Re: 教授会における説明会第2弾&質疑応答集（三重大）

杉田様、皆さま お疲れ様です。

図書館はこれまで専ら利用者（読者）としての教員（研究者）を相手にしてきたわけですが、IRを推進するにはどうしても発信者（著者）としての教員（研究者）と密接な関係を結ぶ必要があります。

図書館が中心となって機関リポジトリを推進することの図書館にとっての隠れた最大のメリットというか恩恵というか楽しみは、発信者（著者）としての教員（研究者）と身近に接し、そこから、これまでになかった新たな図書館サービスのヒントを得られることではないかと愚考するのですがいかがでしょうか。（尾城）

【出典】<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf-ml/100/194.html> のキャッシュ

機関リポジトリの醍醐味を語った
言葉の中にパラダイムシフトを見た

第三の転機（2013年）

- 初めての管理職＋「図書館入試」の実務を担当＋
「研修のあり方WG報告書」の執筆@お茶大図書館
- ✓ プレーイング・マネージャーとしての経験
- ✓ 教育のプロ、事務のプロとの教職協働、学生協働の経験
- ✓ 国公立を超えた図書館のプロたちとの協働の経験

「大学の図書館職員は
図書館員である前に、
大学の職員であること」を
強烈に意識

図書館や大学などの
組織／業界の強みは、
個々のプロフェッショナル
の強みの総体＝∞

関連する報告書等

- 国立大学図書館協会 人材委員会
『平成24年～25年度調査報告
— 業務委託と人事交流を中心に —』（平成26年10月）
<http://www.janul.jp/j/projects/hr/gyomuitakujinjikoryu.pdf>
- 国公立大学図書館協力委員会 研修のあり方に関するWG
『大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方について
（報告書）』（平成27年12月）
http://www.janul.jp/j/documents/coop/training_wg_report_1512.pdf
- ✓ 森いづみ，大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方について：
国公立大学図書館協力委員会 研修のあり方に関するWG報告書
の概要紹介（特集 図書館員のキャリアマネジメント）.
図書館雑誌 Vol.110 no.10 p.639 -641（2016.10）
<http://hdl.handle.net/10083/60506>

報告書の解説では
アクティブラーニン
グにならない？

本日お話しすること

- テーマ：「（大学）図書館職員の専門」
 - ✓ とても難しいテーマ：なぜ難しいのか？
 - ✓ 世の中の変化に応じて、大学や図書館に求められる機能が大きく変わっているから
- そもそも図書館とは何か？
 - ✓ どれだけその姿や手段が変わっても「人々の知的生産を支える社会装置」という本質は変わらないのではないか
- 「変わり続ける世界で、人々の知的生産を支える社会装置の担い手である我々はいかにして生きるか」
 - ✓ 変わりゆく世界
 - ✓ 専門性の捉え方、専門性の獲得モデル
 - ✓ 「プロフェッショナル」を意識した出来事
 - ✓ これからの専門性を考える材料

変わりゆく世界 ①世界的変化-1

● 『ライフ・シフト』100年人生時代の到来

- ✓ 過去200年間、人の平均寿命は伸び続けてきた。そこから導かれる予測によれば、2107年には主な先進国では半数以上が100歳よりも長生きするのだという。すると、80歳程度の平均寿命を前提に＜教育＞＜仕事＞＜引退＞の3段階で考えられてきたライフコースは抜本的に考え直されなければならない。
- ✓ たとえば、機械化やAIの進歩を受けて雇用はどう変わるのか。予測しづらい変化に対処するための人的ネットワークをいかに構築すべきか。健康にはどう留意すべきか……などなど。本書が示す新たな問題の切り口は、極めて多彩だ。

【出典】『Life shift (ライフシフト):100年時代の人生戦略』
amazonメディア掲載レビュー（週刊文春 2017.06.01号）より

- ✓ 日本語版への序文：

「日本では、長寿化の負の側面が話題にされがちだ。この変化を恩恵ではなく、厄災とみなす論調が目立つ。本書では、長寿化の恩恵に目を向け、どうすれば、個人や家族、企業、社会全体の得る恩恵を最も大きくできるかを中心に論じたい。」

変わりゆく世界 ①世界的変化-2

● 100年人生時代における「教育機関の課題」と予測

- ✓ 長い人生では学習と教育が一層重要になり、それに多くの時間を費やす人が増える。大学の学部教育で経験学習の要素が増やされて大学教育の年数が長くなり、大学院に進む人や職業訓練を受ける人も多くなる。学習方法のイノベーションも進む。
- ✓ 人生の早い段階での教育年数が増えるだけではない。人生のもっと後の段階でも、教育への真剣な投資がなされるようになる。雇用環境の変化に対応したり、頭脳を刺激し、リフレッシュしたりするために、新しい専門知識を学ぶ必要性が理解され始めるからだ。
- ✓ こうした変化を受けて、教育機関と、学術上の能力と職業上の能力の認定方法の多様性が大きく広がる可能性が高い。

【出典】リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット著『Life shift (ライフシフト) : 100年時代の人生戦略』

東洋経済新報社、2016.11、p.365

変わりゆく世界 ②日本の変化-1

● 人材への投資と人生100年時代への対応

- ✓ 今後の人生100年時代、本格的な人口減少社会の到来を見据えた「人づくり革命」を強力に実行していくべき

1. 教育の機会の確保

幼児教育の無償化に最優先で取り組むべき。一方、志があっても経済的に恵まれない若者が、勉学に専念できる環境整備を行うことは重要だが、高等教育における公的支援の対象については、低所得者層など真に助けが必要な人に支援を限定すべき。

2. 大学改革

グローバルに見た地位の低下、必要となる人材の供給不足など、我が国の大学改革は、世界のスピードに遅れている。受け皿となる大学の抜本改革は喫緊の課題。国際競争力を持つ大学や特色を持って地域に貢献する大学への統合・再編を促すとともに、外部人材登用の促進、ガバナンス改革などを通じ、社会人育成やIT人材供給など新しいニーズへの対応、地域ニーズに合わせた高等教育機関への転換を図るべき。

3. 全世代型社会保障への改革

4. 財源確保

【出典】平成29年第13回 経済財政諮問会議 資料2(平成29年9月25日)

http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2017/0925/shiryo_02.pdf

変わりゆく世界 ②日本の変化-2

● 世界に先駆けた「超スマート社会」の実現 (Society 5.0)

- ✓ 世界では、ものづくり分野を中心に、ネットワークやIoTを活用していく取組が打ち出されている。我が国ではその活用を、ものづくりだけでなく様々な分野に広げ、経済成長や健康長寿社会の形成、さらには社会変革につなげていく。また、科学技術の成果のあらゆる分野や領域への浸透を促し、ビジネス力の強化、サービスの質の向上につなげる
- ✓ サイバー空間とフィジカル空間（現実社会）が高度に融合した「超スマート社会」を未来の姿として共有し、その実現に向けた一連の取組を「Society 5.0」とし、更に深化させつつ強力に推進
- ✓ サービスや事業の「システム化」、システムの高度化、複数のシステム間の連携協調が必要であり、産学官・関係府省連携の下、共通的なプラットフォーム（超スマート社会サービスプラットフォーム）構築に必要となる取組を推進

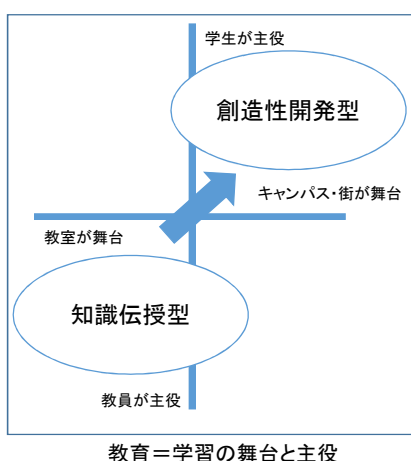
※Society 5.0とは：

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続くような新たな社会を生み出す変革を科学技術イノベーションが先導していく、という意味を持つ

【出典】第5期科学技術基本計画（平成28年度～32年度）の概要 より
http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2017/0925/shiryo_02.pdf

変わりゆく世界 ③大学改革-1

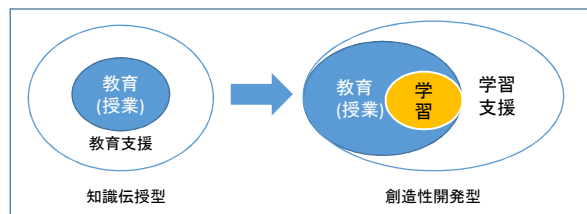
● 大学運営のリエンジニアリング：教育概念の転換と学習支援機能



- ✓ 創造開発型にあつては、教員による良質の授業と同時に、キャンパスや街にあつて学習者の主体的学習を効果的に支援する、組織化され制度化された仕掛けが必要
- ✓ 従来の教育（授業）機能の一部は、学習支援の装置の役割に移管
- ✓ 大学の図書館は、学習者の学習の場として徹底的に利用しつくされなければならない
- ✓ 今日的センスに基づく大胆な再組織化と、新しい学習支援サービス機能の開発が必要

変わりゆく世界 ③大学改革-2

● 大学運営のリエンジニアリング：教育概念の転換と学習支援機能



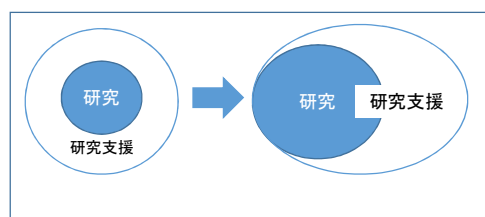
井上真琴.
"大学図書館の学習支援".
平成26年度大学図書館職員
長期研修. 2014 で紹介

大学教育概念の変化

- ✓ 「学習」が「教育」に代わって大学の直接目的に位置づけられ、学生が大学の活動の中心となる発想の転換
- ✓ 学習を直接促すものとして「教育（＝授業）」と「学習支援」の機能が対等な重要性をもって「学習」機能を取り囲むという構図の出現
- ✓ 教員による教育機能の補完に過ぎなかった学習支援機能が、教育コンセプトの刷新とともに、学習行為になくてはならない大学の中心的機能として急速に浮上し脚光を浴びはじめている

変わりゆく世界 ③大学改革-3

● 大学運営のリエンジニアリング：研究スタイルの変化と研究支援



研究のありかたの変化



- ✓ 従来の「研究支援機能」は秘書的役割・研究資金申請事務程度
- ✓ 個人研究→共同研究、書齋型→データ重視・コンピュータ、ネットワーク活用型へのシフト。大型化、学際化、国際化、資金の学外依存度増大。マネジメントや研究遂行上のコーディネーションが成否を分け、外部資金の導入のための組織的戦略的アプローチも負荷が大きい
- ✓ 「研究機能」と「研究支援機能」の関係もダイナミックに変化しつつある

変わりゆく世界 ③大学改革-4

● 大学運営のリエンジニアリング：新しい時代の大学構成員論

✓ 理念

- ・ 職員及び学生の役割の再評価と、大学運営へのコミットメントの深化・拡大
- ・ 意思決定プロセスの開放と行政管理のプロフェッショナル化

→大学運営の自由化（リベラリゼーション）と専門職業化（プロフェッショナルリゼーション）が求められる

✓ 喫緊の課題

- ・ 職員の資質・能力の向上
- ・ 実務処理能力中心→調査分析・企画立案・コンセプト／ビジョン・メイキングにいたる広範囲な知的活動を担う人材の確保と、高度の専門職業教育を通じた能力の養成

専門性の捉え方（辞書的な定義①）

● 専門

- ✓ 一つの方面をもっぱら研究したり、それに従事したりすること。また、その学問や職業。
- ✓ 「古代史を一に研究する」「一書」。

【出典】Weblio（三省堂 大辞林）

<http://www.weblio.jp/content/%E5%B0%82%E9%96%80>

● 専門性

- ✓ 特定の分野についてのみ深く関わっているさま。高度な知識や経験を要求されること、またはその度合い。
- ✓ 「専門性が高い職種でスキルを磨く」などのように用いられる。

【出典】Weblio（実用日本語表現辞典）

<http://www.weblio.jp/content/%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7>

専門性の捉え方（辞書的な定義②）

● 専門職

- ✓ 専門的な知識、技術をもって企業業務に従事する職種。

【出典】 JapanKnowledge（日本国語大辞典）

<http://japanknowledge.com/lib/display/?lid=200202721af6d6BTRX4f>

- ✓ 現代の日本においては、国家資格を必要とする職業を指すことが多いが、近年では高度な専門知識が必要となる仕事については、国家資格を不要とする仕事でも専門職と呼称することも多い。

他にも、「職能団体を有すること（学会が存在する）」
「倫理綱領が存在する」という要件をもって専門職の定義とする見解もある。

【出典】 Weblio（ウィキペディア）

<http://www.weblio.jp/content/%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7>

専門性の捉え方（法律上の位置付けと資質）

図書館専門職ということ

- ▶ 大学設置基準（文部科学省令） 38条3項

「図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置くものとする。」

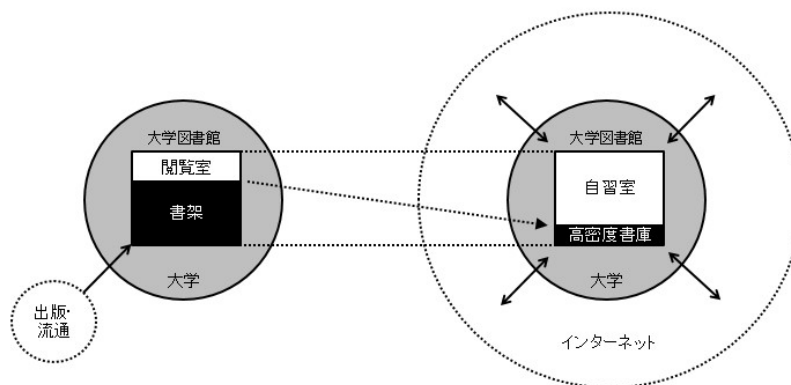
- ▶ 国立大学図書館協会ビジョン2020

図書館職員の資質向上

国立大学図書館職員は、これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識やメタデータ運用スキルに加え、新たな知識やスキルを習得することにより、学術情報流通環境の変化の中で国立大学図書館に期待される新たな機能を実現する。

学術情報流通環境の変化とは

● 大学図書館の位置と情報流路の変化



【出典】 杉田茂樹. 学術情報流通の逆転. 大学図書館研究, 103 (2016) 10.5281/zenodo.813660
 ※慶應義塾大学大学院(社会人コース)における、現職図書館職員からのレクチャーにて初出(2013)

～ For libraries the future is a foreign country ～

学術情報流通環境の変化とは

図書館業務へのインパクト

冊子体	有料電子ジャーナル	有料電子ジャーナル (ビッグディール)	OAジャーナル
選定	選定	選定	選定
契約	契約	契約	契約
目録	目録	目録	目録
受入	受入	受入	受入
支払	支払	支払	支払
供用	供用	供用	供用
ILL対応	ILL対応	ILL対応	ILL対応
製本	製本	製本	製本
保存	保存	保存	保存

APC関連事務?

例: ジャーナル関連の
業務の変化

専門性の捉え方（ビジネスの世界）

● プロフェッショナルとは

- ✓ 専門的欧米では、たとえば優秀な技術者に、「あなたはスペシャリストなのですね」と言うと、嫌な顔をすることが多い。「では、エキスパートと呼べばいいですか？」と言い直しても、あまりいい顔はしない。「そうか、プロフェッショナルか」と言って、初めて笑って、「イエス」と答えてくれる。彼らのイメージでは、スペシャリストとは単能工を意味する。ある1つの技術なり、工程の専門家だ。エキスパートは、熟練したスペシャリスト、文字どおり、熟練工を意味する。
- ✓ では、プロフェッショナルというのはどういう存在か。1人で相応の価値を上げることができる人である。価値を上げるということはビジネスができるということにも通じる。技術という範囲で言うのであれば、たとえば「釘が打てる」ではプロとは言えない。「家が作れる」となって初めてプロと言える。
- ✓ では、1人で家が作れなければプロではないのか。長い時間を掛けて1人でログハウスを作ればプロなのか。もちろん違う。それではビジネスにならない。つまりは、ある一定以上の幅のある技術を習得しているとともに、営業力やマネジメント能力があつて、さらにチームビルディングができて初めてプロフェッショナルと呼ばれる。

【出典】あなたはプロフェッショナルか、単能工か：大企業の管理職が誤解しがちな「専門性」の意味 より
DIAMOND ONLINE （2013.12.24）<http://www.weblio.jp/content/%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7>

専門性の捉え方（この研修での考え方）

● 「専門性」という言葉で一括りにしている概念を解きほぐした例：

- ✓ スペシャリスト：ある工程の専門家
- ✓ エクスパート：熟練したスペシャリスト
- ✓ プロフェッショナル：ある一定以上の幅の技術を習得しているとともに、営業力、マネジメント能力を持ち、チームビルディングができる

【出典】あなたはプロフェッショナルか、単能工か：大企業の管理職が誤解しがちな「専門性」の意味 より
DIAMOND ONLINE （2013.12.24）<http://www.weblio.jp/content/%E5%B0%82%E9%96%80%E6%80%A7>

● 大前提：全ての人／職に対するリスペクト

「プロの仕事」を意識した事例 ①

● NACSIS-CAT検討作業部会主査のつぶやき

- ✓ このサービスがスタートしたのは1985年である。それから30年、サービスの内容や、データベースの基本設計は当時から変わっていないという、驚くべきサービスだが、しかしさすがにいろいろ限界がきている。電子ジャーナルや電子ブックに対応できていないし、他のシステムとのデータの連携がなかなか難しい。(中略)だが、今はグローバルにデータを連携して、WEB上でデータを機械的にマージしたりリンク付けして提供することが当たり前になっている時代である。この時代に対応した形にNACSIS-CATを2020年をめどにアップデートする、それがこの作業部会のミッションである。スタートして以来最大の変更になるが、**データのスキーマ、運用のガイドライン、サービス、検討しなければならないことは山積みである。しかし、どうにかして「ソフトランディング」することが、この作業部会のミッションである。**
- ✓ みすみは目録をそう深く知っているわけではないが(目録の専任だったことがないし、まあ人並み程度か)、システムから目録、受入、ILL、電子ジャーナル、機関リポジトリ、リテラシー、利用者サービスまで、そして高専から中規模、大規模大学まで、**いろいろ見てきて、どこがどう繋がっているかがわかっている、それが強みなのかな、**と考えている。

【参考】 NACSIS-CAT検討作業部会【みすみつうしんNo.1151】(2017.9.11)より
筑波大学・三角太郎氏の許諾を得て抜粋掲載

「プロの仕事」を意識した事例 ②

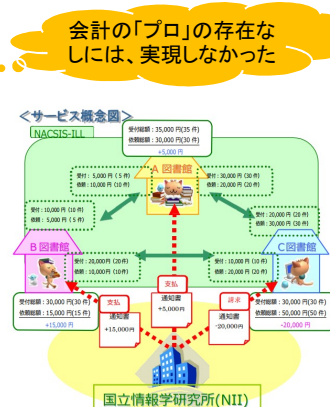
● NACSIS-ILLの相殺システム

国立情報学研究所(NII)では、平成16年4月からILLシステムを活用して文献複写、現物貸借に関する料金の相殺サービスを新たに開始いたしました。

平成16年4月からの**国立大学の国立大学法人への移行に伴ない、会計処理は、これまでの国の会計規則ではなく、「国立大学法人会計基準」に則ることとなり、会計処理の規制が大幅に緩和されることとなります。**

今までは、同じ予算の仕組みであった国立大学間のみで複写料金の相殺処理が行われてきましたが、ILL文献複写等料金相殺サービスでは、**国立、公立及び私立大学等の全てのNACSIS-ILLシステム参加館の加入を可能とします。**

ILL文献複写等料金相殺サービスは、この機会を最大限に活用し、**教育研究の推進のための図書館サービスの高度化、事務処理の効率化・合理化を進めるとともに経費節減を目指しています。**



「プロの仕事」を意識した事例 ③-1

● 著作権講習会から帰って来た新人職員＋職員全員へのメッセージ@信大図書館

著作権講習会のご報告、ありがとうございました。実務に即した内容だったようで良かったです。10月の中国四国の研修会で、「大学図書館職員の専門性」というお題で話をさせていただくことになっています。どんな話をするか考える中で、図書館職員に限らず

「専門職と認められる要件」は、「**周辺のなことまで含めて、正しい理解とその知識を使った課題解決ができること**」が必要なんじゃないかと、つらつら考えています。

例えば、著作権法。

● 図書館における利用にからむ部分

第31条：図書館等における複製

第32条：引用

について熟知していること。もちろんここがまずは大事なのですが、もう一步踏み込んで、

● 学校教育における利用にからむ部分

第33条：教科用図書等への掲載

第35条：学校その他の教育機関における複製等

第36条：試験問題としての複製等

についても、わかっている図書館員って、頼りになると思いませんか？

(先生や学務課の領域であって、図書館の専門領域ではないと切り捨ててしまわない)

「プロの仕事」を意識した事例 ③-2

● 著作権講習会から帰って来た新人職員＋職員全員へのメッセージ@信大図書館（続き）

こういう考え方ができれば、これから益々求められるであろう、デジタル・リソースを活用した学修／学習支援に、図書館がもっと資することができるんじゃないかと感じています。

＃このことは、大学の情報セキュリティに関するe-learning教材をやってみて、著作権コースでは、学校教育における利用にからむ部分が主になっているのを知って、さらに強く思うようになりました。

専門知識は「できない理由を探す」ために使うのではなく「実現手段を検討し、交渉し、実現し（できれば）汎用化する」ために使いたいですね。

今回の受講内容をまずは咀嚼して実務に生かしていただきつつ、その少し先にある領域にも意識を向けていただければな・・・と思います。

「プロの仕事」を意識した事例 ③-3

- 著作権講習会から帰って来た新人職員＋職員
全員へのメッセージ@信大図書館（続き）

目指すべきあり方：

専門外の人と、専門用語を濫用せず
（或いは適切な定義・根拠を示し）
相手の文脈に沿って説明し、納得
してもらい、協力し合えること

受け手の反応？

→ メールだけでなく普段
の会話からも「図書館の
中だけで考えてたらダメ
なんだな」と感じている

専門知識は「できない理由を探す」ために使うのではなく「実現手段を検討し、交渉し、実現し（できれば）汎用化する」ために使いたいですね。

今回の受講内容をまずは咀嚼して実務に生かしていただきつつ、その少し先にある領域にも意識を向けていただければな・・・と思います。

変わりゆく世界 ④高大接続改革-1

- 高大接続システム改革会議の『最終報告』（平成28年3月）
大学教育改革、高校教育改革、大学入学選抜改革の「三位一体の改革」

✓ 背景

- 国内外の大きな社会変動（グローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興／生産年齢人口の急減や地方創生への対応など）
- 「多様な人々と協力し主体性を持って人生を切り開く力」や「知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造する資質や能力」が重要である

✓ まとめ

- 先行き不透明な社会で生きる人々に不可欠な資質・能力を育成する場である高等学校や大学は、我が国社会の基盤を形成するための公共財
- 置かれた境遇を問わず、全ての人々が充実した教育を通じて高い資質・能力を身に付け、それぞれの選ぶ道で輝き活躍できる社会の実現
- 関係者はもちろん広く社会全体で知恵を出し合いながら取り組む必要がある

変わりゆく世界 ④高大接続改革-2

- 高大接続システム改革会議の『最終報告』(平成28年3月)
大学教育改革、高校教育改革、大学入学者選抜改革の「三位一体の改革」

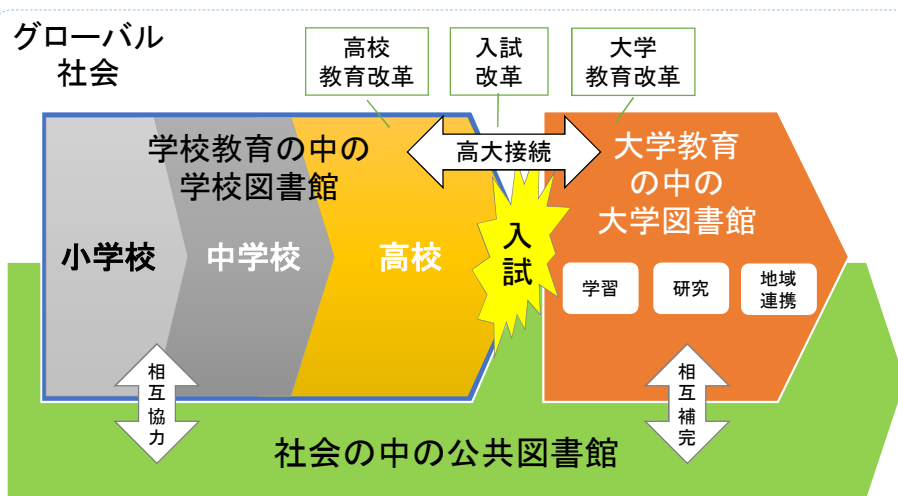
- ✓ 教育改革において身に付けるべき力「学力の3要素」
 1. 十分な知識・技能
 2. それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力
 3. これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

アクティブ・ラーニングによって
身に付くことが期待される

教育手法としての
アクティブ・ラーニング型授業

変わりゆく世界 ④高大接続改革-3

- 館種を超えた情報リテラシーの獲得モデル (試案)



「プロの仕事」を意識した事例 ④-1

● 「図書館入試」 @お茶の水女子大学

- ✓入試改革の目的：
 - 潜在的な能力、とりわけ大学入学後の学びや社会に出た後に、その能力を大きく伸ばせる「のびしろ」を持った学生の選抜
- ✓「現場密着型の研究と教育の一体化を提唱」したヴィルヘルム・フォン・フンボルト（ベルリン大学創設者）にちなんで、「新フンボルト入試」と命名
- ✓一次選考を兼ねる文理共通のプレゼミナールと二次選考（文系「図書館入試」、理系「実験室入試」）の二段構え
- ✓単に知識の多寡を問うのではなく、「課題を探究・発見」し「必要な資料やデータを活用」し、「オリジナルな解を導き出す」力を測定する

【出典】森いづみ，新しい時代にむけた教育改革を図書館は推進できるか：お茶の水女子大学「図書館入試」のチャレンジ．

図書館雑誌 Vol.110 no.7 p.416 -417 <http://hdl.handle.net/10083/59986>



「プロの仕事」を意識した事例 ④-2

● 「図書館入試」 @お茶の水女子大学

- ✓重要なコンセプト：
 - ・「受験の有無、可否に関わらず、参加者にお土産（大学においても、社会においても、必須の能力）を持ち帰ってほしい」（by入試推進室長）
 - ・「本学図書館を自由に使ってレポート作成、発表」
→いかに実現するか？
- ✓実現方策の提案→3つの方針：
 1. コンテンツは、ネットワーク上の情報環境を含め、本学の学部学生と同じ条件で使えること
 2. 人的なサポート体制を整えること
 3. 場所は、図書館のラーニング commons のパソコンや、グループディスカッションを行なうキャリアカフェを含め、図書館をフル活用できること



「プロの仕事」を意識した事例 ④-3

● 「図書館入試」 @お茶の水女子大学

- ✓ 図書館スタッフが担当したこと:
 - ・ 各プロセスに最適な環境の整備
 - ・ 「情報探索レクチャー」
 - ・ 「レポート作成（情報探索→執筆）」のサポート
- ✓ 関係部署（入試推進室、AO入試室、入試課、および情報基盤センター）と密接に連携し、方針や実施内容、役割分担を検討
- ✓ 役割の確認、共通理解の一助として、国立大学図書館協会「高等教育のための情報リテラシー基準」（2015年6月）を活用

「入試改革」という重要な事業において、プロフェッショナル集団として参画できた？

専門分野＋プロジェクトのファシリテーター的役割

専門知識とスキルの裏付け

「プロの仕事」を意識した事例 ④-4

● 「図書館入試」 @お茶の水女子大学

平成27年プレゼミナール：のアンケート結果

午前・午後に各1回実施し、88名が参加（回収数：81名）

1. 「情報探索レクチャー」の理解度：「とても分かりやすかった」44%、「分かりやすかった」29%、「少し難しかった」11%、「難しかった」4%
2. 有益度：「とても有益だった」72%、「有益だった」22%、「知っていることが多かった」2%、「ほとんど知っていることだった」0%
3. 「レポート作成の際のTA・図書館スタッフの支援や助言」：「有益で助かった」83%、「少し役に立った」12%、「あまり有益でなかった」0% 「有益でなかった」0%

→これらの結果から、参加者の満足度が高かったことが窺われる
4. 「レポートのための材料として参照したもの」は、「図書館の蔵書＋Webサイト」が最も多く、ついで「図書館の蔵書（紙媒体）のみ」

→学びの場で使われるコンテンツの傾向を垣間見ることができた

「プロの仕事」を意識した事例 ④-5

● 「図書館入試」 3つの背景まとめ

「図書館入試」の発想の背景にあったのは？

①学びの場づくり:

ラーニングcommonsやキャリアカフェを設置し、校内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた

単なる空間ではなく、部署を超えた協働の場として活用

「教職協働」「学生協働」の小さな成功体験を

②情報リテラシー教育:

初年次教育の必修授業での講習会やクラス単位のオーダーメイド講習会を積極的に実施してきた

入試担当の先生もオーダーメイド講習会を活用

積み重ねた結果として

③ピアによる学習支援:

図書館内で行うTA (Teaching Assistant) 相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA (Learning Adviser) を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA (Library Academic Learning Adviser) にリニューアル

学び手の視点と力をサービスに活用

「教員との信頼関係」が徐々に構築できた？

「プロの仕事」を意識した事例 ⑤-1

● 県立高校司書研修会@信州大学

「探究型学習を推進するために高校図書館ができること～実践につなげるためのワークショップ～」の実施

✓研修のねらい:

- 探究型学習の推進のために図書館に求められている機能を考えるには、まず、私たち自身が、探究型学習を実体験を通して理解し、関係者と協働しながらプロジェクトを進めていくスキルとマインドが必要です。
- 本日の研修自体をアクティブ・ラーニング型で実施します。情報リテラシー教育・学習支援について、大学の動向を知ったうえで、課題解決グループワークを体験し、アイデア創出ワークショップを行うことで今後の取組につなげます。

「プロの仕事」を意識した事例 ⑤-2

● 県立高校司書研修会@信州大学

✓ 研修の構成と時間配分

- レクチャー：45分 Hop
「今、大学図書館の現場で起こっていること
～ 学習・教育支援の実際 ～」
- グループワーク（前半）：90分 Step
「課題解決」ワークショップの体験
- グループワーク（後半）＋発表
：80分＋40分 Jump
「探究型学習のために図書館ができること」の提案

✓ アクティブ・ラーニングの技法例を明記

「プロの仕事」を意識した事例 ⑤-3

- 反転授業（Flipped Classroom） →事前課題として取り入れる
 - ✓ 「知識の伝達」はなるべく事前に行い、授業（集合研修）では、一人ではできないインタラクティブな（双方向性のある）活動を多く取り入れる。
- ペアワーク（Think-Pair-Share） →レクチャーの中で取り入れる
 - ✓ 自分で考える→隣の人と意見交換する→全体で共有する
- ジグソー法（Jigsaw Method） →グループワーク(前半)で取り入れる
 - ✓ あるテーマについて複数の視点で書かれた資料をグループで分けて読み、自分なりに納得できた範囲でメンバーに説明し合う。
 - ✓ 交換した知識を統合してテーマ全体の理解と課題解決に繋げる、協調的な学習法。「個の理解」→「共有化」
- ラウンドロビン（Round Robin） →グループワーク(後半)で取り入れる
 - ✓ グループのメンバーが順にアイデアや意見を述べていく方法。
 - ✓ ブレインストーミングの簡易版で、多くの人と、短時間で意見交換できる。

「プロの仕事」を意識した事例 ⑤-4

- 研修の講師の経験はあった
- 自分自身がさまざまな手法を体験したこともあった
- ワークショップの方法についてプロから学んだ経験もあった



- しかし何よりも、gaccoのコース「インタラクティブ・ティーチング」を修了し、**確かな知識の獲得による裏付けがあったことが自信につながった**

学習支援業務担当者に求められるスキル

- UMass Amherst の場合（必須事項）
 1. 図書館学の修士号、または同等の学位2年以上の情報リテラシー教育経験がある
 2. 2年以上の情報リテラシー教育経験
 3. 高等教育のための情報リテラシー能力基準に関する実務に役立つ知識
 4. 最新の情報技術に長け、教材資料の作成と提供ができる
 5. 高いサービス指向
 6. 目まぐるしく変化する学術環境に適応する能力
 7. 生産性を向上させるためのソフトウェアに習熟
 8. 教育やトレーニング、評価に関する経験
 9. 口頭、書面によるコミュニケーションの優れた確かなスキル
 10. 大勢の聴衆を相手にして、教え、話すことに習熟

学習支援業務担当者に求められるスキル

● UMass Amherst の場合（必須事項続き）

11. 学部学生のための主要な図書館資源や蔵書を熟知
12. 情報資源とサービスに対して、適切な分析と評価
13. 仕事上の人間関係を円満に構築し維持することができる
14. 多様な教育環境下において、協働と知識の共有を促進するチームの一部として働くことができ、かつその活動を調整する能力

● UMass Amherst の場合（望ましい事項）

1. 教職に就いた経験
2. インターネット上における情報伝達の有用性、基本的な原理原則を熟知
3. 情報やデジタルメディアの活用能力や基準、学習理論、図書館利用教育における優良事例の実務経験／学習経験
4. インストラクショナル・デザイン理論の実践経験／体系的な学習経験



【出典】城恭子. アメリカ大学図書館における学習支援担当者に求められるスキルおよびステークホルダーとの協働事例に関する調査報告. 大学図書館研究, 106 (2017) <http://doi.org/10.20722/jcul.1472>

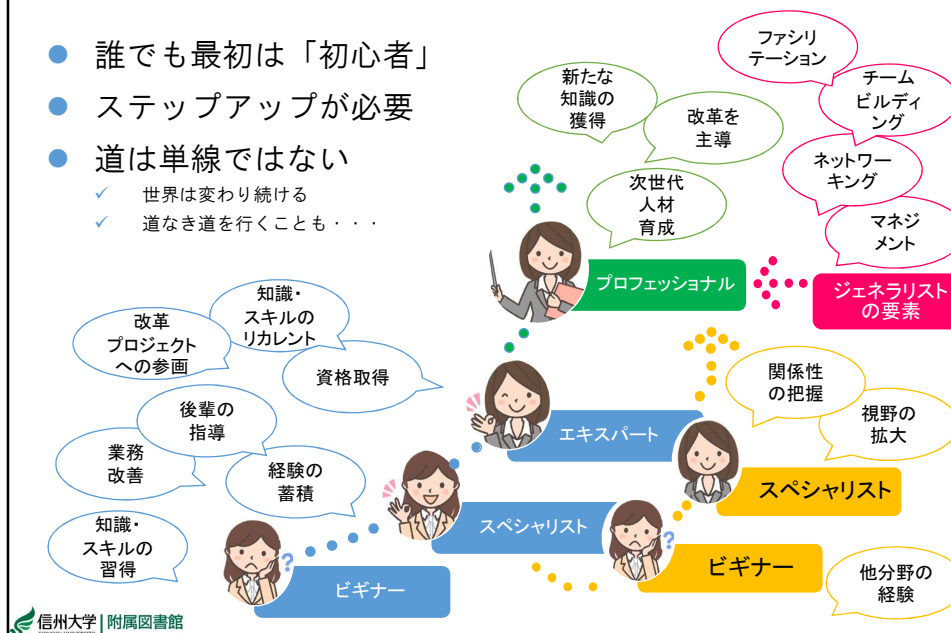
専門性の獲得モデル（試案）-1

● 誰でも最初は「初心者」

● ステップアップが必要

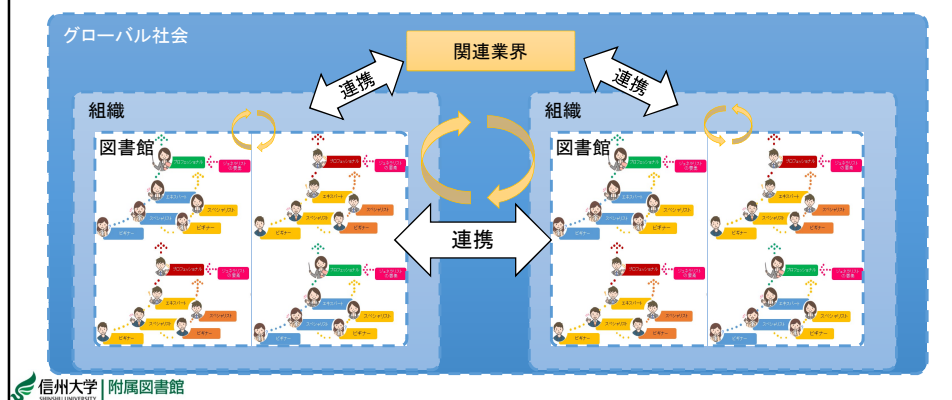
● 道は単線ではない

- ✓ 世界は変わり続ける
- ✓ 道なき道を行くことも・・・



専門性の獲得モデル（試案）-2

- 事前質問より
 - ✓ 「図書館職員の専門性」を複数のスキルを包括した概念だとすると、1人で全てのスキルを最高レベルまで引き上げることは困難
 - ✓ 複数の職員や図書館で、チームとして専門性を高めることが重要
- 個々のキャリアパス、組織／業界の人材育成計画の中で、さまざまな経験を積み、人事交流や連携を行いながら、強みを作っていく

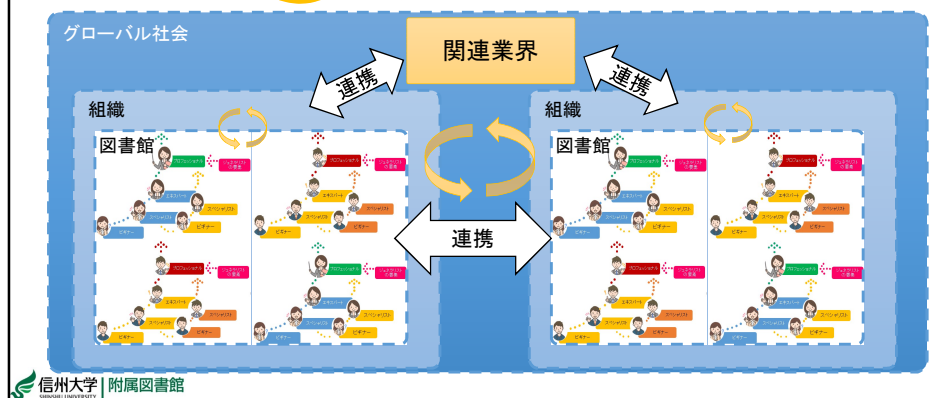


専門性の獲得モデル（試案）-3

- 事前質問より
 - ✓ 複数のスキルを包括した概念だとすると、1人で全てのスキルを最高レベルまで引き上げることは困難
 - ✓ 複数の職員や図書館で、チームとして専門性を高めることが重要
- 個々のキャリアパス、組織／業界の人材育成計画の中で、さまざまな経験を積み、人事交流や連携を行いながら、強みを作っていく

変化への
対応力

組織／業界の強みは、
個々のプロフェッショナルの
強みの総体 = ∞



これからの専門性を考える材料 ①-1

● 大学図書館職員の専門研修再構築概念図 (2015年12月)

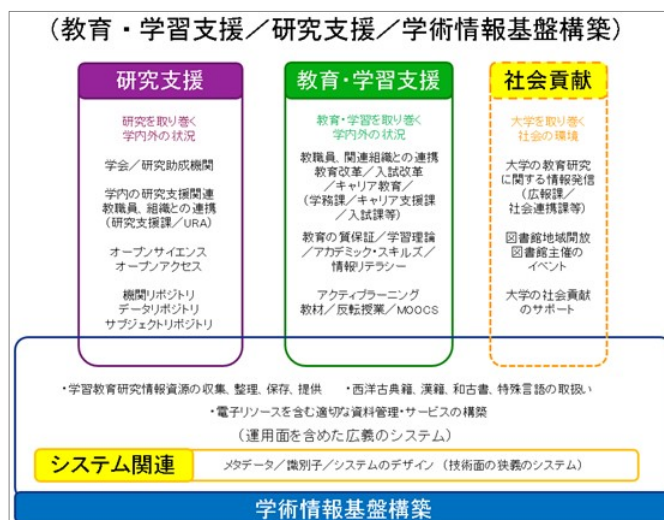
✓ 教育基本法

(第七条)

大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、

深く真理を探究して新たな知見を創造し、

これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。



これからの専門性を考える材料 ①-2

● 今後の専門研修のあり方について (「報告書」サマリーより)

- ✓ 「学習・教育支援」、「研究支援」、「学術情報基盤構築」の3つを、大学図書館職員の専門性の主要カテゴリと位置付けた。これらは大学図書館の共通機能であり、業界で継続的に人材育成を行っていく必要がある。
- ✓ 一方で、大学図書館職員は大学職員であり、大学のミッションに沿った活動が求められる。組織内外の関係者と積極的に関わりを持ち、組織の中に組み込まれた存在として強みを発揮することも、今後の大学図書館員に求められる専門性の一つといえる。
- ✓ 大学図書館に求められる機能には普遍性があるが、実現の手段、必要な知識・スキルは時代とともに変わり続けていく。専門研修は、「学び続ける」ことができる人材と、学びを支える組織文化があって初めて、持続的かつ有効に機能する。
- ✓ 専門研修の設計は、確立されたスキルによる安定的・継続的な業務にかかるものと、変化に対応した新しい枠組みの構築に資するものという、2つの方向性がある。

これからの専門性を考える材料 ①-3

● 大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方に関する有識者ヒアリング

✓対象：

- ・ 図書館業界内外の研究者、管理職、現場担当者等

✓項目：

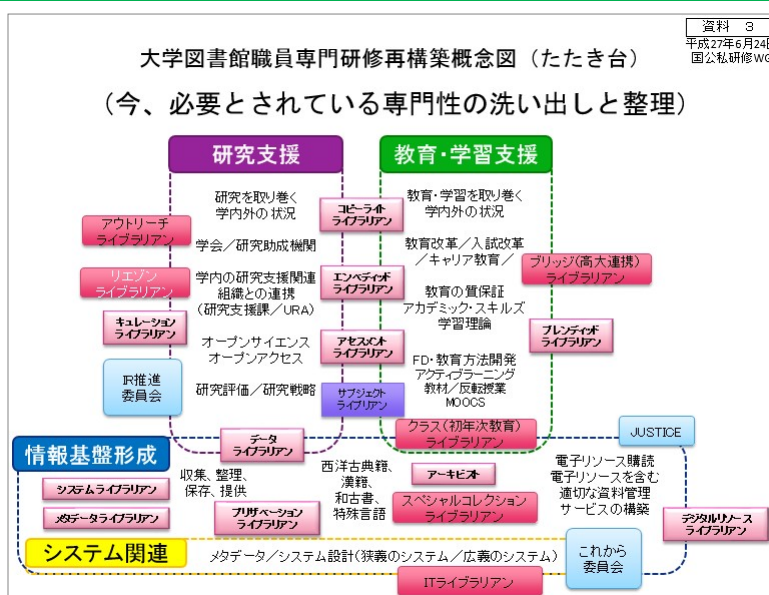
1. 今後の（今現在の）大学図書館職員に期待される役割について→専門性をどのように捉えるか
2. 専門性の可視化のためには何が必要か→特に図書館の外から見えやすくするために必要なこと
3. 上記の専門性を持った大学図書館職員の人材育成にはどのようなことが必要か→キャリアパスや中長期の育成プラン等も含む
4. 上記について、研修として行なうべき事項は何か→具体的な方策、カリキュラムの検討・研修の主体等も含む



信州大学 附属図書館

【出典】 国公立大学図書館協力委員会『大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方について（報告書）』

これからの専門性を考える材料 ①-4



信州大学 附属図書館

【参考】 国公立大学図書館協力委員会 研修のあり方検討WG第2回ミーティング資料

これからの専門性を考える材料 ②-1

● 長期ビジョン検討体制(案)@信州大学

✓趣旨：

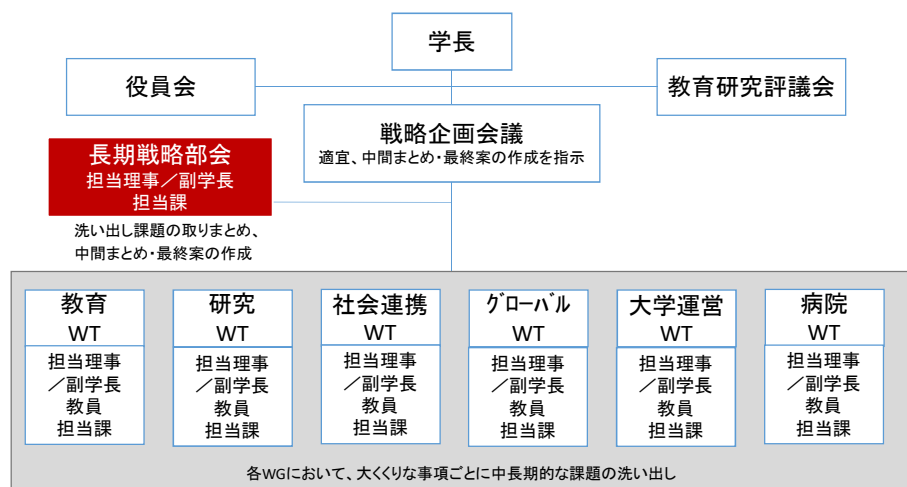
- 2030年以降、少子高齢化、技術革新（AI, IoT, ビッグデータ）やグローバル化の進展に伴う就学・就業構造、産業構造や社会システムの変化が見込まれている。
- このような環境変化等を見据え、信州大学としてどこをとがらせていくか、長野県の大学としてどうしていくかを意識した検討をおこない、信州大学としての方向性を提示する。
- 今後、各担当（法人本部・部局）が諸課題を検討する際に、議論の土台となるものとした。

✓長期ビジョンの対象期間：

- 2030年（H42）以降を見据えることとする
※政府検討における一つの区切り、切りが良い数字
※18歳人口は101万人、2031年（H43）に100万人を切る

これからの専門性を考える材料 ②-2

● 長期ビジョン検討体制(案)@信州大学



これからの専門性を考える材料 ③-1

特に留意しておくべき課題

- 経済のグローバル化
 - トヨタ自動車の生産・販売台数(2016年度見通し～2016.8時点同社公表)
 - 生産:国内325, 海外580, 計905万台 販売:国内160, 海外760, 計920万台
- IT(情報技術)の急速な発達 → 働き方やビジネスを大きく変えつつある
 - IoT(Internet of Things)、AI(人工知能): IBM Watson(Cognitive Computing)
- 高止まりする若年失業率
 - 2013年:日本6.3%、アメリカ13.4%、イギリス16.3%、ドイツ7.8%、フランス23.2%、イタリア42.7%、スペイン53.2%
- 少子高齢化
 - ・特に、生産年齢人口(現役世代、15歳～64歳)の減少と高齢者の激増
 - ・社会保障給付費支出(2014年度)～財政制度等審議会資料より
 - 115.2兆円(年金56.0、医療37.0、福祉その他22.2)
 - 保険料64.1兆円、国庫31.1兆円、地方負担11.9兆円、資産収入等
- 相対的貧困率15.6%、子どもの貧困率13.9%(7人に1人が貧困状況)
 - ～厚労省「平成28年国民生活基礎調査」

5

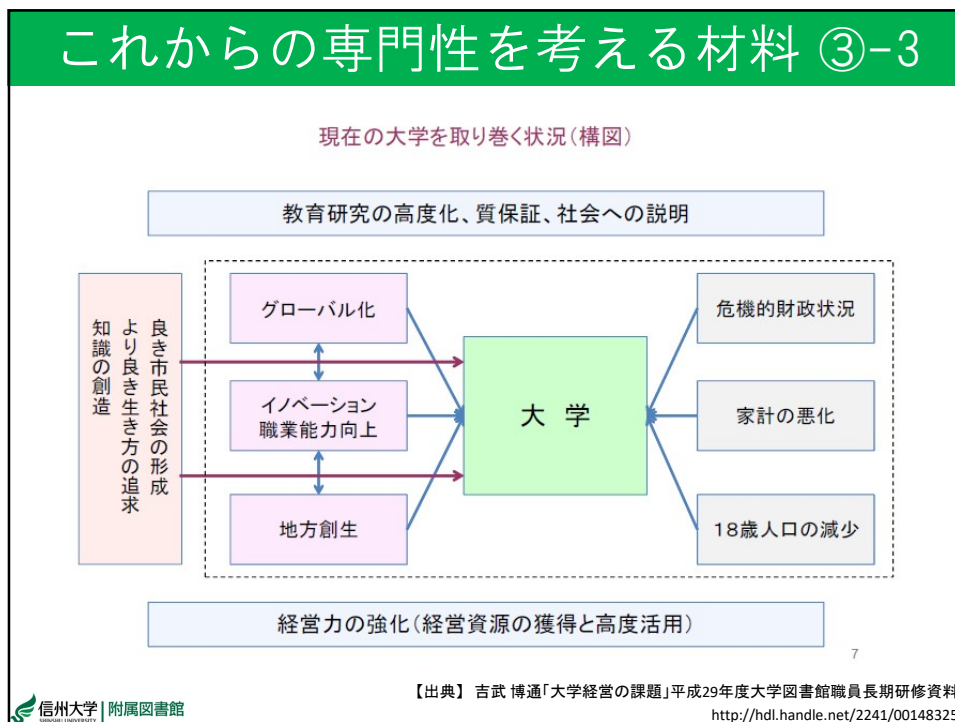
これからの専門性を考える材料 ③-2

高等教育及び大学に関する過去5年間の動向レビュー

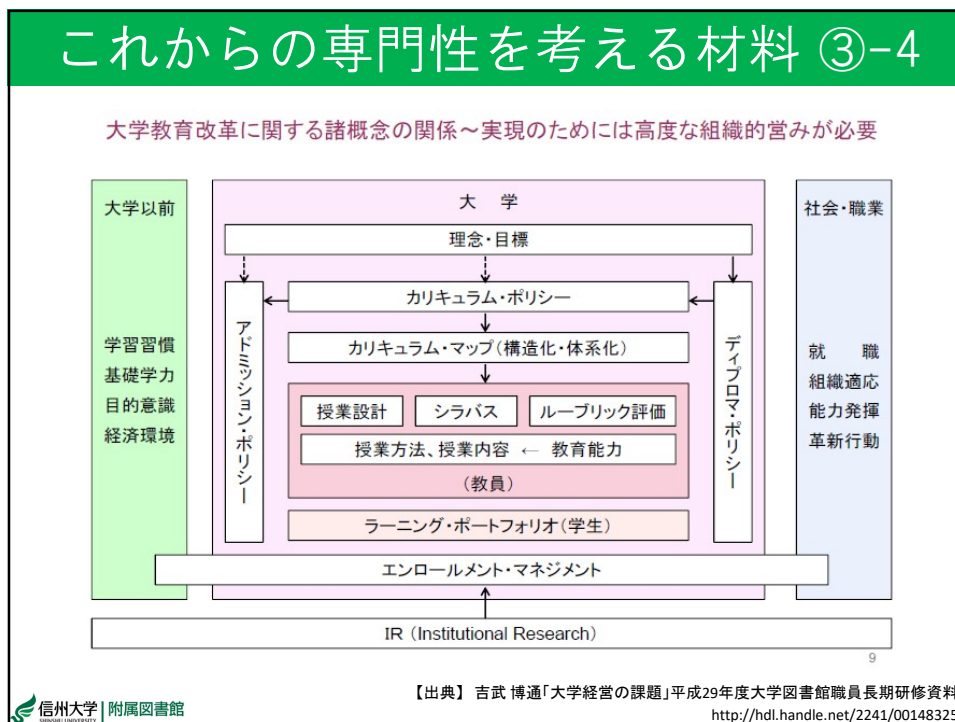
- 2012年 6月:「大学改革実行プラン」～ 国立大学のミッションの再定義
- 2012年 8月:中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」
- 2013年 5月:教育再生実行会議(第三次提言)「これからの大学教育の在り方について」
- 2013年 6月:「日本再興戦略～JAPAN is BACK～」(2013.6.14閣議決定)→2014.6.24「改訂2014」
- 2013年 6月:第二期「教育振興基本計画」(2013.6.14閣議決定、5カ年計画)
- 2013年10月:教育再生実行会議(第四次提言)「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」
- 2013年11月:「国立大学改革プラン」
- 2013年12月:「大学のガバナンス改革の推進について(審議まとめ)」(組織運営部会)
- 2014年 6月:「学校教育法及び国立大学法人法の一部改正」→ 2015年4月施行
- 2014年12月:中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」
- 2015年 3月:「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の在り方について(審議のまとめ)」
- 2016年 3月:高大接続システム改革会議「最終報告」
- 2016年 5月:中央教育審議会答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」

6

これからの専門性を考える材料 ③-3



これからの専門性を考える材料 ③-4



これからの専門性を考える材料 ④-1

大学図書館をとりまく厳しい環境

- ・『アメリカの大学では、ライブラリアン（＝主題専門職）という職種が絶滅しようとしている』（石松）⇒（図書館員は単なる書庫の門番としてしか残らない？特に専門教育における主題専門職の役割の低下？）
- ・「個別の図書館システム」を必要としない、あるいは図書館を必要としないようなOPAC／図書館システム環境の出現⇒（認証のコントロールさえできれば後は利用者の思うがままに情報源を利用？）

7

これからの専門性を考える材料 ④-2

大学図書館をとりまく厳しい環境

- ・「大学内で『場所としての図書館が必要である』と言っているのは図書館員くらいのものである」（D.Schulenburger）⇒（図書館は完全にバーチャル化？）
- ・「『情報化に対応しない図書館』や『学習に役立つ図書館』を明示的に指向しない大学図書館は大学にとって単なる巨大書庫という不良債権(!)になりかねない。」（河西）

8

これからの専門性を考える材料 ④-3

とりあえずのまとめ

- 図書館で行われる人的支援の中心は学生の能動的学習(あるいは学生のリサーチ)のサポートである
 - 単なる利用指導を超えて。ライティングセンター機能によるアカデミック・ライティングの指導→図書館員の教員化か？学習支援専門職化？
 - リエゾン・ライブラリアン(教員との連携の強化)
 - 多様な人材のとりまとめ
 - 学習用コンテンツ(教材)の構築＝ライセンス処理を含む

ここ数年の先導的大学図書館の活動でモデルは確立された。

40

これからの専門性を考える材料 ④-4

学習における人的支援の考え方

- 大学において学習をサポートする人材は図書館員だけではない
 - 学生(TA,SA=ピア・サポート)
 - 教員
 - 伝統的な意味での図書館員とは異なるスキルを持つ職員

多様な人材が混在することによって新しい図書館は、はじめて機能する

41

これからの専門性を考える材料 ④-5

研究における人的支援の考え方

- ・ 何が求められ、何ができるのか？
 - － 現時点ではモデルはない。
 - － 図書館員に対する期待は高い。
 - － 学習支援とは異なり、全ての大学(図書館)に当てはまるようなモデルの構築は難しい。

電子ジャーナル、データベースの持続的安定的整備、
機関リポジトリによる
研究成果の発信強化、
研究データの保存と管理

URA？
サイエンスデータ？
キュレーション？

これからの専門性を考える材料 ④-6

まとめ

- ・ 大学図書館員が持つべき「コアとなる知識・スキル」の再定義が必要
 - － 大学図書館専門職とは何ができる人の集まりか(研究支援／学習支援)
 - － それをどのような形で養成するのか
 - － 大学における大学図書館員の位置づけ

「大学のミッションを実現するために、図書館(員)は何ができるかを考える」

46

これからの専門性を考える材料 ④-7

● 国立大学図書館協会 ビジョン2020

(2016.6.17 第63回総会で採択)

✓大学図書館の基本理念：

大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

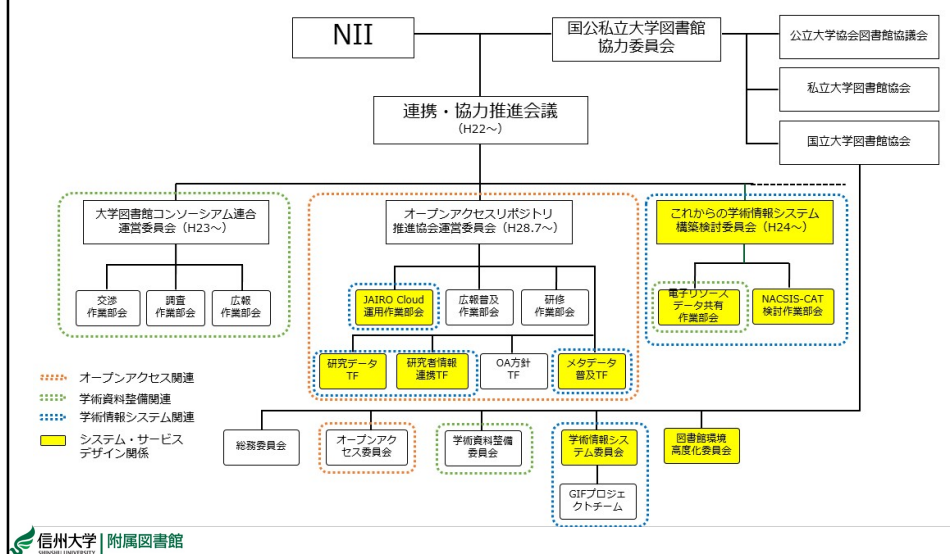
✓3つの領域

1. 知の共有：〈蔵書〉を超えた知識や情報の共有
2. 知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供
3. 新しい人材：知の共有・創出のための〈人材〉の構築

「アカデミック・リンク教育・学修支援専門
職育成プログラム」のような取組

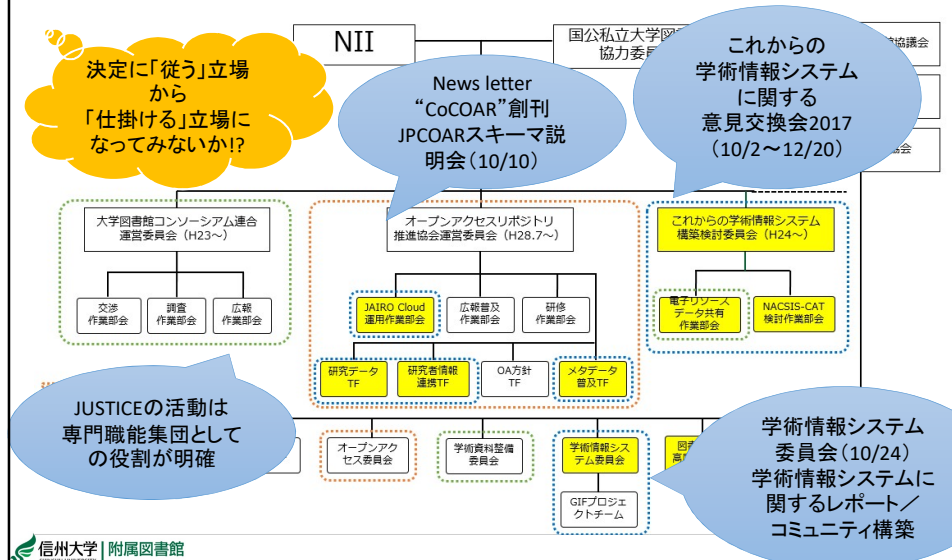
これからの専門性を考える材料 ③-2

● 連携・協力推進会議／国大図協委員会体制関係図(試案)



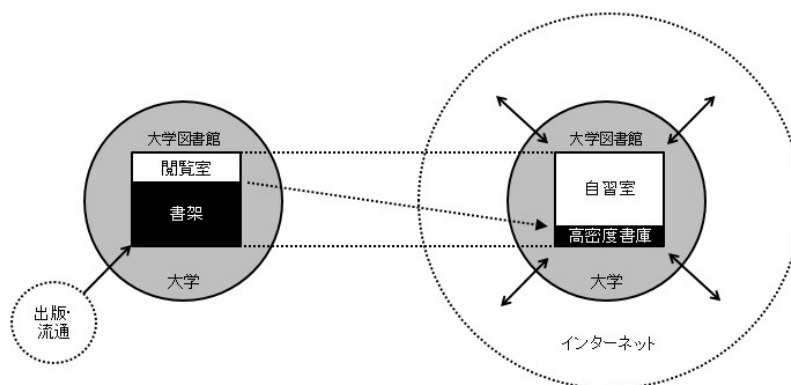
これからの専門性を考える材料 ③-3

● 連携・協力推進会議／国大図協委員会体制関係図(試案)



既に変わってしまった世界の中で

● 大学図書館の位置と情報流路の変化



【出典】 杉田茂樹. 学術情報流通の逆転. 大学図書館研究, 103 (2016) 10.5281/zenodo.813660
 ※慶應義塾大学大学院(社会人コース)における、現職図書館職員からのレクチャーにて初出(2013)

～ For libraries the future is a foreign country ～

これからも変わり続ける世界のなかで

～ For libraries the future is a foreign country ～

- 変わり続ける世界で
- 人々の知的生産を支える社会装置の担い手であり
- その世界を生きる主役でもある
- 我々はいかにして生きるか

2日目のグループワーク:
図書館職員の専門性とは何かを考え、
どのような方法で専門知識を習得していくか
皆さんのアイデアに期待します！

おまけ：ワークショップに向けて

- 図書館の外側から発想する
 - ✓ 「図書館が」何をするべきか、から考え始めると、なかなか殻が破れない
 - ・ 学生は、教員は、何を求めているんだろう？
 - ・ 大学は、社会は、何を求めているんだろう？
- 自分たちも含め、課題解決のリソースになる
 - ✓ 新しいことをしようとする人は結構孤独
 - ・ 図書館員自身が、課題解決に導くためのリソースになれる
 - ・ あなたの周りに困っている人はいませんか？
 - ・ 話せる「人」をつくることが、第一歩
- 理想・構想を描きつつ身近な一歩を踏み出す
 - ✓ 正しい答えを誰かが知っているわけではない
 - ・ 初めから完璧でなくてもいい
 - ・ 最初の一歩をいかに踏み出すか

ヒントは外にある
答えは中にある